

2021.8.15

説教「愛する理由」松村光司

聖書 創世記 25 章 27~34 節

25:27 二人の子供は成長して、エサウは巧みな狩人で野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で天幕の周りで働くのを常とした。28 イサクはエサウを愛した。狩りの獲物が好物だったからである。しかし、リベカはヤコブを愛した。

29 ある日のこと、ヤコブが煮物をしていると、エサウが疲れきって野原から帰って来た。30 エサウはヤコブに言った。「お願いだ、その赤いもの（アドム）、その赤いものを食べさせてほしい。わたしは疲れきっているんだ。」彼が名をエドムとも呼ばれたのはこのためである。31 ヤコブは言った。「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください。」32 「ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」とエサウが答えると、33 ヤコブは言った。「では、今すぐ誓ってください。」エサウは誓い、長子の権利をヤコブに譲ってしまった。34 ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えた。エサウは飲み食いしたあげく立ち、去って行った。こうしてエサウは、長子の権利を軽んじた。

○はじめに

みなさんおはようございます。今日も一緒に礼拝できることを嬉しく思います。

アブラハム、イサク、ヤコブの神、それはイスラエルの信仰のルーツです。そんな信仰のルーツに連なる一人であるイサクと、その家族というのは、神様に祝福されて、さぞ素晴らしい家族だっただろう。そんな思いで聖書を読むと、私たちは意外なことを突きつけられます。なぜなら、イサクとリベカ、そしてその子、エサウとヤコブの関係は、互いに愛し合う理想的な家族像とは少し違うからです。

しばらくこの物語を読み進めていきますが、その中で私たちが気付かされるのは、神様がこの家族をいわゆる理想的な家族に変えていくのではないということです。むしろこの家族はいろいろな問題の中で、ばらばらになり、その中で一人ひとりが神様と出会うのです。そして最後には互いに和解をするのですが、それは家族が一つになる和解ではありません。それぞれがバラバラなままで、お互いに距離をとって、住み分ける、そんな結末が待っているのです。

そこでは人間が勝手に理想的だと思ったり、素晴らしいと思こんでいる、家族の枠組みが崩されます。そして、新しくされた中で生み出される、新しい関係が作られるのです。そこに聖書は神様の希望を見ているのだと思います。

今日はその最初の部分、エサウとヤコブの確執にまつわる話をみていきましょう。

○似ていない二人

イサクとリベカが結婚し、ようやく授かった子どもたちが、今日の物語の中心になるエサウとヤコブです。二人は双子でした。

二人がやがて成長してきたとき、この双子は、見た目も性格も全く違うことが分かります。兄のエサウは毛深く狩りをするのが得意で、野に出ていっては、動物を捕まえて

いました。一方、弟のヤコブは薄毛で、家の仕事をしたり、おそらく羊飼いととしての仕事をするのが好きでした。

二人が対象的だったのは見た目や、性格だけではありませんでした。両親との関係もそうだったのです。イサクはエサウを愛し、リベカはヤコブの方を愛したというのです。しかし聖書は、イサクがエサウを愛したのは、その狩りの獲物が好物だったからと、理由をつけてしるします。それは少し気になる言葉です。

みなさんはどう思うでしょうか。狩りの獲物が好きだというのは、果たして本当にその人を愛していることになるのかと少し戸惑います。狩りを好むワイルドなところが好きだったと言われたら、なるほどなどと思います。でもそうではないのです。その獲物が好きだったのです。そしてこのことが、後々、イサクが騙される伏線になっています。でも、そんな関係というのは、案外私たちにはリアルな愛の姿かもしれません。その一方で、母リベカはヤコブを愛した。そこに条件は書かれていないのです。

そんな風にそだってきた、エサウとヤコブの関係は、少し複雑だったのかもしれませんが。母親の愛情を受けて育ったヤコブ、片や、エサウは自分の狩りの獲物を喜んでくれる父がいました。でもそれは自分の性格や、生き様を受け入れてくれた訳ではない、そのことにエサウも気づいていたはずで

○エサウとヤコブの確執

そんな中で、今日の物語の中心となる出来事が起きます。それはある日、エサウが狩りから返ってきたときのことです。お腹をすかせたエサウは料理を作っていたヤコブに、その料理を食べさせてくれということです。ヤコブはそれに対していいです。「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください」。長子の権利とありますが、これは長男の特権のことです。ユダヤでは長男が親の財産を優先的に引継ぎ、また家庭でも権力があつたのです。この聖書では「譲ってください」と書かれていますが、それはマイルドに訳されています。なぜならここは、「売る」という意味の言葉だからです。ヤコブが言ったのはこういうことです。「お兄さんの長男の特権を私に売ってください。そうしたら食べさせてあげる」。エサウはそのことをあまり気にする素振りもなく、約束してしまうのでした。

聖書はこれをエサウが長子の権利を軽んじたと語りますが、ヤコブの「長男の特権を売ちなさい」という言葉も、なかなか露骨です。どちらが悪くてどちらが正しい、そういう話ではないのです。それぞれが、自分の思う所に従って生きている。その中で、対立が生まれてきているのです。

○長男の特権

長男の特権。それは、どんな意味があるのでしょうか。エサウが狩りから返ってきた様子を振り返ってみましょう。エサウは帰ってくるなり、ヤコブにいいです。「その赤いものをくれ」。そう繰り返すエサウの姿は、この日に限ったものではなかったはずで

しかし、弟は自分の言うことをよく聞いて、食事をくれる、というような風に。

しかし弟ヤコブはそうは思っていなかったのです。弟ヤコブが兄エサウの言葉に従っていたのには理由があったからです。それが長男の特権です。ヤコブは自分が弟であるから、エサウの言葉に従っていた。そこには「獲物が好きだからエサウを愛した」というイサクの愛と、どこか通じるものがあります。言うことを聞くには理由があるのです。

エサウはそんな自分が持っていた長男の特権に気づいていません。彼は自分が一番最初に生まれた男の子だった。それで自分はやりたように生きてこれたのです。でもそれは、ユダヤでは長男以外には許されないことでした。ヤコブの言葉は、エサウにそれを気づかせるヒントになるはずの言葉です。「長男の特権を売りなさい」。でもエサウはそれに気づかないのです。そして、それを全部失ってから、エサウは自分が特別扱いされていたことに気づくのです。

○無自覚な特権

エサウの持っていた無自覚な特権。それは、今の時代でもあります。少し前までは、長男の特権というのは日本でもあったのではないのでしょうか。長男だけが高等教育を受けられたり、家業を継ぐことがゆるされたりということでした。私は長男でしたが、そういう意味で優遇されたことがあったのかもしれない、そんな風に考えさせられます。

ただ、私が最近思わされている、無自覚の特権というのは、少しべつところにあります。それは自分が男として生きてきたということです。男女では社会で同じ評価を得るために、必要とされる努力やコストがぜんぜん違う、そう言われています。男性はそれだけで、社会では有利だということです。

でもそれは、確かにそうだと思わされているのです。特に私は理系の大学で、男の方がずっと多かったのです。もし自分が女だったら、肩身が狭かったり、居心地が悪いこともあったろう、そう思われます。また、教会の中でも、同年代の女性はお茶くみや裏方の奉仕を頼まれていても、私は頼まれませんでした。逆に、人前に立つような奉仕を頼まれました。満員電車ののつても、痴漢にあう心配をすることはなく、夜飲んで帰ってきて、暗い夜道を歩くときに、心配してタクシーに乗らなくても良かったのです。

そういうことは、自分が男性として生きてきたから無条件に得られた特権だということが、少しづつ分かってきました。それが分かってくると、世の中はまだまだ不平等なことがあると思うのです。

ヤコブとエサウの間ではそれが長男の特権でした。それは世の中では当たり前なことかもしれませんが。また、私の言った男の特権は、意図して決められたものではないと思うかもしれません。でもそういう、当たり前とか、致し方ないといって、世の中で受け入れられている出来事を、神様はそのままそれで良いとは言わないのです。むしろ、そんな人のルールをそっとひっくり返すことがある。そんな当たり前に私たちが受け入れていることが崩されるとき、不思議に神様の計画は前に進み、予告は実現するのです。

○神の国はどこにできるか

イサクは息子をそのまま愛せない。エサウは自分の特権を振りかざしていることに気づけない。弟ヤコブはそれに抵抗する。そんなヤコブを愛するリベカ。それぞれに、色々な思いを抱えながら、繋がっていた家族。そんな家族がやがてバラバラになってしまいます。でもそのことは、家族が崩壊した良くない出来事なのかということ、そうでもないのです。それによって、ひとりひとは、それぞれに苦労しながらも自分の力であるきはじめるからです。そしてその先で神様に出会うのです。そしてやがて、バラバラのまま、再び家族は出会い、今までとは違う形で、新しい関係を結ぶように成るのです。

それはイエス様に会い、新しい生き方を初めた私たちが、それぞれの家族や、属する場所から出て、教会で出会うことと似ています。教会はこの世の家族の延長や、理想形ではありません。それとは違う、新しいつながり、イエス様を中心にした新しい関係なのです。

祈りましょう。

<p><u>池田バプテスト教会</u> 〒563-0027 池田市上池田 1-2-25 Tel 072-751-9853 礼拝 毎週日曜日 10:30-11:30</p>	<p><u>北豊中教会</u> 〒560-0056 豊中市宮山町 3-19-33 Tel 06-6854-8038 礼拝 毎週日曜日 15:00-16:00</p>
<p>礼拝の様子は各教会のFBページにてライブ配信しています。一週間程度は録画を見ることができしますので、御覧ください。</p>	